



流行注意報

赤い発疹は…?

風疹と伝染性紅斑(リンゴ病)が流行っています

赤い発疹が出る病気の代表は、麻疹です。世界では、今年になってもヨーロッパやフィリピン、タイなどで流行しています。旅行者が旅先で感染し、帰国後麻疹を発症しています(このような例を輸入麻疹例と呼びます)。日本のあちこちで帰国者から周囲の友達に感染していますが、大きな流行にはなっていません。海外旅行者が増加しているこれからが要注意でしょう。

赤い発疹がでる二番目の病気は風疹です。風疹もベトナムからの帰国者を含め、日本各地で流行っています。発症している多くの方は20歳代の男性です。麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)を2回受けている人は大丈夫ですが、風疹ワクチンを1回も受けていない人は、急いで風疹ワクチンかMRワクチンを受けてください。

麻疹や風疹は子どもの病気と思いがちですが、子どものころにかからず、ワクチンも受けていなければ、麻疹や風疹に対する抵抗力はありません。当然、麻疹や風疹が流行ればかかります。江戸時代、麻疹は20~30年ごとに流行っていましたので、20歳代の人もたくさん罹りました。

赤い発疹がでる三番目の病気は伝染性紅斑です。両側のほっぺ(頬部)が赤くなる病気で、リンゴ病とも呼ばれています。大人がかかると、両手の指や手足の関節の痛みが強く、皮膚がかゆくなるのが特徴です。妊娠4~7か月の妊婦が発症すると、胎児が貧血をおこしなくなることがあります。この伝染性紅斑も去年から今年にかけて流行っています。

伝染性紅斑の興味深い点は、特徴的な発疹が出ているときはすでに感染力がなくなっていることです。特徴的な発疹が出た時、本人の体調がよければ学校を休む必要はありません。なお、家族性貧血の人や、鉄剤の服用が必要なほど貧血が強い人が伝染性紅斑にかかると、貧血が急に悪化することがあります。注意してください。

赤い発疹が出る四番目の病気は突発性発疹です。3日間ほど39℃台の熱が続き、熱が下がると相前後して体を中心に発疹が出てきます。典型的な症状が出るのは子どもの60%くらいです。残りの子どもは症状が出ずに、突発性発疹をおこすウイルスの抵抗力だけが身につきます(不顕性感染と呼びます)。10年ほど前は、多くの子どもは1歳前に発症していましたが、近年は1歳すぎに発症する子どもが増えました。原因は現在研究中です。

赤い発疹が出る病気には色々あります。ワクチンが普及し、少子化が進むと、以前は子どもの時にかかっていた病気が、子どもの頃にかからずにおとなになってからかかることがあります。子どもの病気が疑われるときは、親子そろって小児科医に相談してください。今から注意する感染症は風疹と伝染性紅斑(リンゴ病)です。

(院長 庵原 俊昭)



三重病院外来糖尿病教室

9月開催のお知らせ

「震災に備えて」

—救護班スタッフの体験から—

東日本大震災に三重病院から派遣された救護班スタッフに現地での診療の様子などお話をしてもらいます。

● 防災について考えてみましょう。



日時

平成23年9月28日(水) 14:00~15:00

場所

三重病院 研修棟 第一研修室

外来棟玄関にむかって左側の建物です。詳しくは職員にお尋ねください。

担当

薬剤科 小池薬剤師 内科 荒木医師

参加費無料で、関心のある方はどなたでも参加できます。当日直接会場にお越しください。

お問い合わせは 059-232-2531 内科外来まで